

第 41 回 防災カフェを開催しました。



水害から大切な命と財産を守るために

ゲ ス ト：里深 好文 さん

(立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授)

日 時：2019年9月24日(火) 18時～20時

場 所：ゆめまちテラスえち

ファシリテータ：深川 良一 さん

(立命館大学 理工学部 特命教授)

近年、局地的な豪雨は増加していて、毎年のように土砂災害や洪水災害が発生しています。どうしたら水災害から大切な命と財産を守れるのか、愛荘町の状況を踏まえながら一緒に考えました。



ゲスト 里深 好文 さん

はじめの1時間、ゲストからの話題提供がありました。その概要については、防災カフェのHP(滋賀県防災カフェで検索)の第36回「防災フェ in 高島」や第37回「防災カフェ in 長浜」をご覧ください。その後10分間の休憩があり、その間に参加者の皆さんからの質問を整理し、後半50分間で、ゲストとファシリテータに答えていただきました。

以下、参加者の皆さんからの質問をいくつか紹介します。

問：どんなタイミングで避難を開始すればいいのでしょうか？

答：愛荘町の地形から、この地ではそれほどでなくても上流で大雨が降ると、突然大きな水位の変化が起きます。雨の情報が行政からですが、テレビやネットでレーダーの細かな情報が流れるので、そういうものも活用しながら判断することができます。水災害の場合、避難にはそれほど時間がかからず、10分もあれば多くの方が安全なところまで避難できます。雨が本当に強くなると避難がしにくくなるので、いろいろな情報から

強烈な雨雲が近づく前に、避難してほしいと思います。

問：年齢を重ねるほど避難に消極的になるということですが、どうすればいいですか？

答：年配の方は「これまで大丈夫だったので、今回も大丈夫」というように考えてしまいがちです。例えば、堤防の決壊では、どこが壊れるのかはわからないわけですが、過去の決壊が自宅の反対側で起きて結果的にはセーフだった場合に次もセーフと誤ってしまいます。ですから「たまたま大丈夫だったんですよ」ということを伝えてあげないといけないと思います。自分の住んでいる所と似たような地形のところで起きた災害事例を防災学習の材料として使うのも一つの方法だと思います。倉敷市真備町では、滋賀県でよく見られる天井川の河川堤防が決壊しました。ただ真備町のような豪雨がないだけですよというように、麻痺していく危険を感じる力をもう一度呼び覚ますことが必要だと思います。



参加者の皆さん、会場の様子

問：学校での防災教育は重要だと言われますが、いかがですか？

答：小学生が崖崩れから地域の人達の命を救ったという例があります。その小学生は学校でがけ崩れが起きる前の特徴的な現象を習いました。そして、その数週間あとに、自宅の裏山で習ったような現象が起きたので、それを家族に知らせ、周辺の人々にも知らせたところ、がけ崩れが発生したということです。若い人は、習った危険な状態をそのまま受け止める傾向が高く、防災教育には大きな意味があります。一方、大人は、これまで大丈夫だったという多くの経験を持っているので、現象を見ても、危険だと思わなくなることが少なくなります。そういう意味では、幼少期の防災教育によって、子どもたちに危険回避のきっかけになってもらえる可能性が高くなります。がけ崩れなどでは、崖から遠ざかればいいのですが、水害の場合は、どこに逃げるかは難しいので、あらかじめどこに逃げるのかを考えておく必要があります。

2011年の東日本大震災の津波の際、それまでの防災教育が多くの人命を守りました。

問：高齢の人達など避難で特に配慮することはありますか？

答：NHKでは、dボタンで雨雲の様子リアルタイムで表示されるようになっているのでそれを見ることができます。台風などの災害が予想される場合は、タイムラインというものが出されます。タイムラインは事前にどのようなことをしなければならないかを日や時間ごとに示したものです。これによって以前よりは避難のタイミングを掴みやすくなってきています。高齢者や幼児などは避難に時間がかかりますから、それを考えて早目に行動することになります。また、街全体を見て、高齢者や幼少期の子どもたちが集まる場所が、平常時でもより安全な場所に設置されるように配慮しなければなりません。

問：土壌雨量指数ということを知りますが、どういうものですか？

答：降った雨は斜面に浸透していきますが、どれくらい浸みこんでいるのかということを経験的に判断して、斜面の地盤の中に、水がどの程度入っているのかということを表す数値のことです。普通の降水量よりは土砂災害と直結し、ある程度信頼できるということで、実際に斜面崩壊などの予測に使われています。ただ注意点があります。それは斜面の土の種類は実際には多種多様なわけですが、土壌雨量指数算定は、それを代表的なものに置き換えて行われているということです。

それに比べると降雨量は、わかりやすいものです。土砂災害が予想される地域では、これまでの経験からその地域の限界の雨量ものが推定されます。滋賀県ですと累積雨量が200mmとか300mmということになります。



ファシリテータ：深川 良一 さん

問：外出先での突発的な災害に備えて何か準備しておくものはありますか？

答：スマートフォンは大変有効です。今、雨の状況がどうなっているかといった降雨情報など、ずいぶんいろいろな情報を得ることができます。例えばみんなでその使い方の情報を交換するだけでもずいぶん有効な防災訓練になると思います。

里深さん、深川さん、参加者のみなさん ありがとうございました。